

災害時に備えて避難情報の確認を！

保存版

地球温暖化により「スーパー台風」などの大雨がいつ降るかわかりません。
『自分の命は自分で守る！』を合言葉にいつでも避難ができる準備をしておきましょう！
特に風水害の場合は、早めに準備しておく事で安全が確保されることから、
早くから、気象情報を確認し、早めに安全な場所に避難をしましょう！

警戒レベル	避難情報	状況
5	緊急安全確保	<p>既に安全な避難ができず 災害発生！又は切迫！ 命が危険な状況</p> <p>レベル5では消防団も現場から撤収します！</p>
~《警戒レベル4までに必ず避難！》~		
4	避難指示	<p>災害の恐れが高い 危険な場所から 全員避難！！</p>
3	高齢者等避難	<p>災害の恐れあり 危険な場所から 高齢者・障害のある方は 避難！（その支援をされる方）</p> <p>高齢者（障害のある方）以外の人も必要に応じ、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難しましょう！</p>
2	大雨・洪水・高潮注意報	<p>気象状況悪化</p>
1	早期注意情報	<p>今後気象状況悪化の恐れ 情報収集</p>

「避難」って何すればいいの？

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。

普段からどう行動するか決めておきましょう

行政が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。

--- 想定最大浸水深 ---

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない（入っていると…）

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3-4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分（十分じゃないと…）

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間（浸水継続時間）はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。